小出商店街
（小出商店街組合連合会）
新潟県魚沼市

インバウンド　地域課題対応
若手・女性　生産性向上

ポイント

各店主の持つ“職人技”で商店街の魅力をＰＲ。
「魚沼職人大學」を立ち上げて商店街のブランド化を目指す。

基本データ

所在地	新潟県魚沼市小出島
人口	約4万人（魚沼市）
電話/FAX	025-792-2124 / 025-792-7067
URL	https://www.facebook.com/魚沼職人大学-341515802701600/
会員数	132名
店舗数	135店舗（小売業60店、飲食業18店、サービス業15店、不動産業36店、その他6店）
商店街の類型	近隣型商店街
主な客層	主婦、家族連れ（親子）/50歳代、40歳代

商店街概要

魚沼市は新潟県の中越地域でも南東に位置し、平成16年に6町村が合併して誕生した市である。周囲は山に囲まれ、全国でも有数の積雪地帯として知られ、それらの自然条件を活かした名産品として、魚沼産コシヒカリや日本酒、山菜などが有名である。

小出商店街は当地域の4つの商店街組合で構成された近隣型商店街であり、商業の現状を見ると、地域住民の買い物は隣接する長岡市や小千谷市、南魚沼市への流出が多く、住民を商店街へ誘客する施策が課題となっている。そうした厳しい状況の中、若手後継者が中心となって「魚沼職人大學」を立ち上げ、活性化に向けた様々な事業に取り組んでいる。

取組の背景

店主の“技”を持ち寄って商店街をPR

商店街全体を活性化させるためには、商店街の中に繁盛店をいくつ備えることができるかが重要である。しかし、小出商店街においては、製造小売業である和菓子店、パン屋、飲食店、さらに修理を扱うことのできる靴屋、電気店といった手に技を持った魅力的な店舗が多く存在しているものの、各店舗は地域の顧客に対して「提供できるモノ」や「店主の技」の十分な訴求ができていない状況であった。

そのような状況を受け、店主自身が今まで当たり前と考え伝えきれていなかった顧客に魅力的な“モノ”や“技”を表出させることで、商店街の「見える化」を図ることが繁盛店を生み出していくための課題であると考えた。

取組の内容

「魚沼職人大學」のブランド化に尽力

郊外型大規模店舗、コンビニなどのナショナルチェーン、大手ネットショップ、さらには長岡市といった近郊の大きな街との競争に真正面から立ち向かっていくことは難しい。一方で、商店街の持つ資源としては近さ、便利さ、専門店ならではの知識・技術など、たとえ品揃えや価格でかなわなくても「地域・人に密着」してそれを訴求していくことで生き残ることができると認識していた。

そこで、商店街の若手経営者が自分達と同年代の子育て世代である20～30代の女性と子どもをメインターゲットとし、お客様と「ともに」成長することで継続性を生み出すための方法を検討。その結果、商店街をキャンパスに見立て、店主やスタッフが「教授」になり、商いで培ったプロとしての専門知識や職人技を集約・クローズアップし、お客様や他店舗に伝える仕組みである「魚沼職人大學」を設立しブランド化していくこととした。

「魚沼職人大學」では、魚沼市の知名度とイメージを高め、新たな魚沼市の地域商業の活性化の象徴とするため、魚沼市周辺はもとより広く県内外に情報を発信。加えて、魚沼市内で生産・販売される商品や技術などの付加価値を高め、魚沼市の産業振興およびにぎわいのあるまちづくりを進めていくためのプラットフォームとしても位置付け、様々な大学活動を実施していくこととなった。

「魚沼職人大學」の加盟店

活動を通じて、①魅力あるお店づくり事業（一般のお客様によるコンテスト形式の店づくり審査）、

②販売促進活動（共通テーマによる季節にあわせたキャンペーン・フェアの多店舗同時展開、コラボレーション商品の展開）、③広報集客事業（ホームページやフェイスブックでの大学活動と各店舗の宣伝広報活動、動画による職人の技術と人柄の公開）、④街歩き推進プロジェクト（キャンパスマップの作成、共通テーマディスプレイでの街並み形成）などを実施していくこととした。

お客様によるコンテスト形式の店づくり審査

“職人技”を披露中（花屋と手芸店）

お客様には「魚沼職人大學」により、商店街の街歩きを楽しんでもらい、商店街が繁盛店の集合体となることを目指す。

取組の成果

商店街活性化と繁盛店化を両立

「魚沼職人大學」ではこれまでに、商店街の活動を大学のサークル活動や文化祭に見立て３月のひな祭りや５月のこいのぼり、そして 11 月のハロウィン、12 月のクリスマスなど季節に合わせた共同販促事業や季節感のある街並みをつくる取組を行ってきた。

なお、商店街では同時に、株式会社全国商店街支援センターの「繁盛店づくり支援事業」も実施しており、それらとの相乗効果として加盟店全体では売上 128%・来客数 142%（対前年度比）と大きな成果上げることができた。

季節感のある街並みづくり

ホワイトデーに向けたコラボ商品

さらに、魚沼市の堀之内地域において、「魚沼職人大學」の「ほりのうちキャンパス」が開校するなど同様の取組が周辺地域へと波及をしている。

今後も当事業をきっかけに独自の地域活性化の道を切り開き、商店街の魅力を余すことなく伝えていく。

実施体制

現在の商店街における地域商業活性化策である「魚沼職人大學」は、商店街の若手後継者を主体とした「教授会」体制を組織し、毎月継続的かつ積極的に活動を行っている。これらの活動に対し、魚沼市においても現市長が「魚沼職人大學」の名誉学長に就任し、また、商業振興担当職員も活動に参加をするなど積極的に関わりを持っている。さらに、市として予算を計上し、平成 28 年度より３年計画で新商品の開発を促進する事業を立ち上げるなど地域商業活性化に対するバックアップ体制が整っている。

そのほか、地域の関係団体とも連携を取り、強固な実施体制を確立している。

キーパーソンからのコメント

「魚沼職人大學」 学長
杵渕 豊

お客様との距離を縮めて活性化

株式会社全国商店街支援センターの「繁盛店づくり支援事業」を受講した店舗が集まり、連携して何かおもしろいことができないかと考えたのがはじまりでした。

専門的な知識と技術を持つ商店主を「職人」（教授）とし、お客様との関係を教授と生徒にたとえて「魚沼職人大學」を開校いたしました。多くの繁盛店をつくり、それを繋げていくことで街歩きを促進させ、商店街全体を活性化させるのが目的です。

「店づくりからまちづくり」へ

「魚沼職人大學」がプラットフォームとなり、各店舗が魅力ある店づくりに取り組みながら商店主の「顔の見える」イベントやキャンペーンを行うことでお客様との関係性を強めています。

今後は、「店づくりからまちづくり」をモットーに、より「お店力」の高い店づくりの実現と「職人」感の創出をテーマとしたイベントを商店街全体で大學事業と絡めながら行うことで、お客様との距離を縮め、この街と商店街を活性化していきたいと考えています。